

# ICCAE



名古屋大学 農学国際教育協力研究センター ニュース

平成19年12月1日発行 第8巻 第2号(年2回発行;通巻13号)

発行/名古屋大学 農学国際教育協力研究センター  
〒464-8601 名古屋市中種区不老町

TEL 052-789-4225(受付) FAX 052-789-4222

<http://iccae.agr.nagoya-u.ac.jp/index.html>

e-mail:iccae@agr.nagoya-u.ac.jp

## 第8回オープンフォーラム 「大学と国際協力機関との組織 連携の強化—大学国際化戦略の 一環として—」を開催

農学国際教育協力研究センター(ICCAE)は、10月29、30日に第8回オープンフォーラムを全国の先進4大学の関係教職員と文部科学省、国際協力銀行(JBIC)、国際協力機構(JICA)の関係者を招へいして名古屋大学野依記念学術交流館で開催しました。今回のオープンフォーラムでは、「大学と国際協力機関との組織連携の強化—大学国際化戦略の一環として—」のテーマの下、大学が独法化後、国際協力事業を受託するに当たり抱えている問題点とその克服の方法について、関係者による発表とパネルディスカッションが行われました。

初日の冒頭、山内章ICCAEセンター長、山本進一研究・国際交流関係担当理事の挨拶の後、杉本充邦

ICCAE准教授から国際協力事業受託についての名古屋大学の組織、制度・規程上の問題とその改善のための提案を含んだ問題提起が行なわれました。次いで、国際協力事業を実施している大学の代表者による「大学による国際協力事業実施上の問題点とその解決に向けて(事例報告)」に関する講演が行なわれました。各講演のタイトルと報告者名は「JICAとの連携融合プロジェクト」(長澤秀行帯広畜産大学理事)、「修士学位授与を目的としたJICA長期研修『持続的農村開発コース』」(16ヶ月)(弦間洋筑波大学教授)、「草の根技術協力事業『ベトナム中部・自然災害常襲地での暮らしと安全の向上支援』」(田中樹京都大学准教授)、「受託型技術協力プロジェクト『インドネシア国ガジャマダ大学産学地連携総合計画』」(糸井龍一九州大学教授)でした。

2日目は、梅澤敦文部科学省大臣官房国際課国際協力政策室長、五十嵐禎三政策研究大学院大学教授、大金正知国際協力銀行プロジェクト開発部次長、村上正博国際協力機構国内事業部長から「文部科学省及び国際協力機関から見た大学との連携強化のあり方」についての発表と、当日の発表者からの3名に名古屋大学の2名を加えたパネリストによる「国際協力事業実施促進のための大学体制整備について」に関するパネルディスカッションが行なわれました。

今回のオープンフォーラムでは、国立大学法人化後、教員個人が国際協力事業に参画していた従来の体制から、大学組織の本体事業として国際開発協力事業を受託する体制に移行すべく、関係規程の整備、国際担当部署の設置や職員の配置、研究者情報データベースの整備など学内の体制の整備に努めている各大学の現状が確認されました。他方、2日間の議論を通じ、公募・公示情報の収集、教員間の協力体制、受託した経費の使途、間接経費の配分、事業実施のための資金の立替え、事業受託のインセンティブ、事業に参加する教員の業績評価、成果品の著作権の所在など、整備すべき課題が明らかになりました。また、国際協力活動を活発化することによって増大する教員への負担を軽減するためには、教員と事務職員の分業体制をより効率的にする必要があるとの指摘がありました。

今回のオープンフォーラムを受け、ICCAEは、学内の国際交流協力推進本部に置かれている国際開発協力部門の下に、ワーキンググループの設置を提案し、中期目標・中期計画、国際化推進プラン(2005年12月発表)に掲げられている目標とアクション・プランの具体化に向けて、提言を行なってゆく予定です。

(杉本充邦)



第8回オープンフォーラム

# 国際協力のための知的援助リソースデータベースの作成と管理

— 平成19年度「国際協力イニシアティブ」 —

文部科学省は、2007年度より開始した国際協力イニシアティブ活動の中で、大学の分野別協力活動支援を推進するため、知的ネットワークを整備し、分野別の動向に関する調査・分析を行い、大学が有する知的援助リソースに関する助言・提言を行うことを一つの重要な活動としています。そのため、大学の知的援助リソースと途上国の開発ニーズに関する情報を広く調査・分析し、リソースとニーズのマッチング状況を明確にすることによって、国際協力の有効性や戦略性の向上に貢献することを目的とする事業を、2007年度より開始しました。

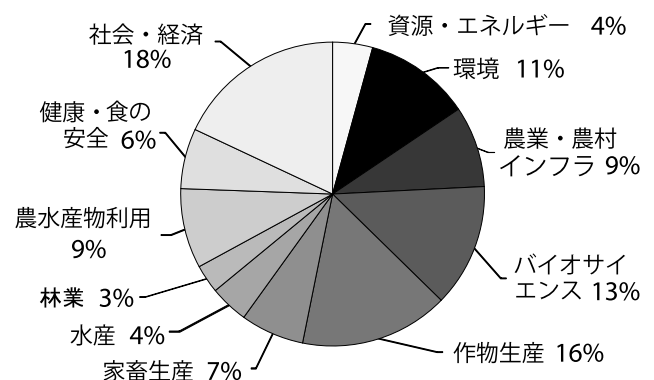
ICCAEは、「国際協力イニシアティブ」活動の中で、九州大学の熱帯農学研究センターおよびアジア総合政策センターと共同して、大学等有する農学分野の国際協力知的援助リソースデータベースの作成と管理を行う調査事業に採択され、実施しています。途上国のニーズに適切に対応した国際教育協力の効率的推進や強化のためには、大学の知的援助リソースの所在、内容および人材を一元的に把握し管理するとともに、ニーズとリソースの解析に基づく助言や提言等を行うことが重要です。また、従来のような個人レベルでなく組織として対応することが大事です。

今年度は、筑波大学陸域環境研究センターが開発したインタラクティブWebシステムを活用して、我が国の大学等有する農学分野の知的援助リソースを把握し、その多様性や所在分布を明らかにすることを目的としています。そのため、まず、農学の各専門分野からキーワード選定委員17名を委嘱し、キ

ーワード選定委員会においてリソース調査のためのキーワードを選定しました。文部科学省と協力して行った全国Webアンケート調査の結果、約3週間という短期間の調査にもかかわらず、三百数十件の登録がありました。現在その結果を解析中ですが、我が国の知的援助リソースの現状を概観し、課題を抽出するなど、今後の援助計画の策定に活用するとともに、委託元の承認のもとに公表する予定です。また、キーワード選定委員会は農学分野の知的ネットワークとして活動することが期待されています。

次年度は、同一キーワードによるWebアンケート調査を、途上国の大学や研究機関等を対象として行う予定です。ニーズの把握と解析を行い、今年度調査した我が国の知的援助リソースと途上国の開発ニーズのマッチング状況を明確にすることにより、国際協力の有効性や戦略性を高めることに貢献したいと考えています。

(浅沼修一)



大学等有する農学分野の国際協力知的援助リソースのキーワードによる分布 (73機関、330件)

## 着任挨拶

伊藤香純 プロジェクト開発研究領域 研究機関研究員

本年9月16日より、プロジェクト開発研究領域の研究機関研究員として採用され、カンボジアにおけるアグロプロセッシングの推進に関する研究に取り組んでいます。2005年4月から本年8月までの間、JICAによるカンボジアでの農林水産分野の国際協力事業に携わり、地域開発、貧困削減、自然資源管理などの様々な視点から農業振興とそのための人材育成の必要性を肌で実感してきました。この経験を踏まえ、カンボジアの農業振興や人材育成に資する研究活動を展開していきたいと考えています。



**略歴** 1974年生れ。米国ユタ大学地理学部を卒業。桜美林大学大学院国際学研究所修士課程にて国際学修士を取得後、名古屋大学大学院生命農学研究科博士課程にて農学博士を取得。2004年度以降、財)国際開発高等教育機構(FASID)、JICAカンボジア事務所、JICA派遣専門家(森林分野人材育成計画II)、インテムコンサルティング(株)にて国際協力の実務を経て2007年9月より現職。

## 2007年度JICA-GIS集団型研修の開催

JICAからICCAEが委託を受けた集団型研修「平成19年度（第3回）GIS（地理情報システム）による天然資源・農産物の管理」が、2007年8月16日～9月19日まで、名古屋大学生命農学研究科で実施されました。アルゼンチン、グアテマラ、バヌアツ、パレスチナ、ブルキナファソ、ベナン、マケドニア、ミャンマーの8カ国から9名の研修員を迎え、大阪市立大学、国際農林水産業研究センター（JIRCAS）、岐阜県立森林文化アカデミーからの講師陣によって、FOSS（Free and Open-Source Software）-GISのGRASSとMapserverおよびRemote SensingやGPSの技術移転が行われました。併せて、GISを用いて天然資源や農業資源の管理、地域社会の様々な情報管理を実施している日本の研究機関や民間企業を訪問し、その事例を学びました。研修員には移転を受けた技術を、FOSSの特長を生かし、それぞれの国で広めることが期待されています。なお、一人の研修員が健康上の理由で研修開始早々帰国を余儀なくされ、健康検診が重要であることが再認識されました。（浅沼修一）



GIS研修の様子

## AICADのパトリック・ワク氏が国際シンポジウムで講演

AICAD（アフリカ人造り拠点）のパトリック・ワク氏が、ICCAEの招へいで来日し、2007年9月12日～13日に東京の国連大学ウ・タント国際会議場で開催されたJ-FARD/JIRCAS主催の「ミレニアム開発目標へのわが国農業研究者の貢献—国内連携と人材の育成—」国際シンポジウムで講演しました。AICADはICCAEが学術交流協定を結んでいるケニアにある地域国際機関です。ワク氏は、これまで7年間のJICA/AICADプロジェクトと最近2年間のICCAEとの学術交流を振り返り、AICADは、今後、貧困削減のために地域

コミュニティに対する技術移転を活性化し地域開発に取り組んでいくので、日本の経験に基づくJICAやICCAEを通じた支援が必要である、と強い期待を表明しました。（浅沼修一）



ワク氏が国際シンポジウムで講演

※J-FARD:持続的開発のための農林水産国際研究フォーラム

## 名古屋大学東京フォーラムでICCAE紹介パネルを展示

2007年10月19日、政策研究大学院大学において開催された第5回名古屋大学東京フォーラムに山内章ICCAEセンター長が参加し、パネル展示による活動紹介を行いました。今回のフォーラムでは、「アジアに繋ぐ知の架け橋」をテーマとして、日本とアジア諸国との新しい関係を築き上げるための様々な先駆的事業が紹介されました。当センターは、カンボジア王立農業大学（RUA）の教育研究強化支援に関する取り組みを中心に、センターの活動目的と活動概要の紹介を行いました。（山内 章）

## JICA短期派遣専門家としてAICADプロジェクトの事業企画案作成に協力

榎原大悟ICCAE准教授が2007年5月14日から8月1日までAICADプロジェクトのJICA短期派遣専門家としてケニア、タンザニア、ウガンダに派遣されました。これまで、AICADでは事業の一環として貧困削減のための研究支援や研修が行われてきました。2007年度中に開始される同プロジェクト・フェーズ3においては、地域住民に対してより直接的に裨益する活動に力を入れる方針です。AICADのこれまでの活動成果を基に現場レベルで成果を挙げるにはどうしたらよいか、同准教授とプロジェクト関係者は協議を重ね、新たな事業企画案を作成しました。同提案を基にAICADの活動が構築され、アフリカにおける貧困削減に貢献することが期待されます。（榎原大悟）



## 外国人客員研究員

### 低利用作物資源はアフリカにおける栄養不良や社会経済に関する問題の解決に貢献することができるか？

パトリック・マウンドゥ バイオヴァーシティ・インターナショナル/ケニア国立博物館研究員  
ICCAE客員研究員（2007年8月15日～11月14日）



アフリカの半乾燥地にある農村で生まれ育った私は、少年時代、遠方まで牛の放牧に出かけた時には、野生植物を採って食料や水分を補いました。この経験とその後のケニア国立博物館東アフリカ植物標本館における仕事が、私にアフリカの植物資源に関する研究に従事するきっかけを与えてくれました。

アフリカには4万種を超える植物が存在すると言われており、食料、薬剤、化粧品、繊維、木材などとして利用されている植物も相当数に上ります。しかし、これら植物資源の持つ潜在的価値は十分に活用されているとは言えません。アフリカの植物資源を効果的に利用することにより、住民の生活向上に貢献できると考えられますが、このためには、研究、技術移転、高付加価値化、市場開拓、植物資源の価値に対する“気付き”の向上など様々な活動が必要です。バイオヴァーシティ・インターナショナルは、他機関と連携して東アフリカの約10種の伝統作物野菜の市場開拓・消費拡大に取り組み、伝統作物の有用性を実証してきました。

ICCAEにおいては、横原大悟准教授と共同で、アフリカにおける低利用作物遺伝資源の保全と利用に関する共同研究の枠組み形成に取り組みとともに、ケニア、キツイ県を対象として、植物資源の潜在的価値とその利用促進にかかる課題について研究しました。また、名古屋大学、筑波大学、京都大学およびJICAにおける発表を通して、私たちの考え方や経験を多くの関係者と共有することが出来ました。これらの活動の実現を支援して下さったICCAE教職員の皆様に感謝いたします。

**略歴** 1959年ケニア、マチャコス生れ。ナイロビ大学卒業後、ケニア農業省で勤務。1989年よりケニア国立博物館で民族植物学研究中に従事。同博物館では東アフリカ植物標本館研究員を経て、1996年から2006年までケニア伝統知識集積センター（KENRIC）センター長。1997年ギリシャ、チャニア地中海農業研究所で修士号取得。2001年よりバイオヴァーシティ・インターナショナル・（旧国際植物遺伝資源研究所：IPGRI）サブ・サハラ地域事務所（ナイロビ、ケニア）研究員を兼任。2006年CGIAR殊勲賞（CGIAR Outstanding Award）を受賞。

## オープンセミナー開催記録（2007年4月～12月まで）

回数	日時	テーマ	講師	所属
1	5月31日	在地の技術開発情報の理解から始まる西アフリカサヘル農業開発	林 慶一氏	国際農林水産業研究センター（JIRCAS）生産環境領域研究員
2	6月6日	ウガンダでのJICAの農業開発協力について	富高元徳氏	国際協力機構（JICA）国際協力専門員
3	7月12日	カンボジア王立農業大学における獣医学のカリキュラムと研究開発	メアス・ソティー氏	カンボジア王立農業大学農業研究普及部長兼ICCAE客員研究員
		イネの耐乾性：国際稲研究所（IRRI）でのNew Frontiers Project	ラシッド・セラージ氏	国際稲研究所主任研究員
4	7月31日	笹川アフリカ農業改良普及員教育基金（SAFE）：全く新しい研修イニシアティブ	デオラ・ナイバケラオ氏	笹川アフリカ農業普及教育基金事務局長
5	9月10日	アフリカ人造り拠点（AICAD）、JICA、ICCAE間の協力：日本の協力に対する評価と期待	パトリック・ワク氏	アフリカ人造り拠点（AICAD）副研究開発部長
		アフリカのフードシステム：その変化および人々の栄養状態と生活に及ぼす影響	パトリック・マウンドゥ氏	バイオヴァーシティ・インターナショナル兼ケニア国立博物館研究員兼ICCAE客員研究員
6	9月25日	ネリカ（NERICA, New Rice for Africa）の特性とウガンダ及び東南部アフリカ諸国における普及状況	坪井達史氏	国際協力機構（JICA）ウガンダ長期派遣専門家
7	10月11日	カンボジアにおける持続的な農村社会開発に向けた技術協力とは～バットバン農業生産性強化計画における取組より～	小國和子氏	日本福祉大学大学院講師
8	11月13日	作物遺伝資源とその利用にまつわる伝統知識の保全および農民の生活向上への利用：ケニア、キツイ県における事例	パトリック・マウンドゥ氏	バイオヴァーシティ・インターナショナル兼ケニア国立博物館研究員兼ICCAE客員研究員
9	11月16日	熱帯における砂糖とエタノール生産のためのサトウキビ栽培技術について	アルバロ・アマヤ氏	コロンビア・サトウキビ研究センター所長